

徳島市人口ビジョン(素案)及び徳島市未来チャレンジ総合戦略(素案)の概要 1 / 2

【徳島市人口ビジョン(素案)】

本市の現状

- ・本市の人口(国勢調査)は1995年をピークに減少が続く
- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年に約20万6千人に減少

本市の課題

- ・若者の大都市圏への人口流出
- ・出生率の低迷
- ・生産年齢人口の減少

本市の将来展望

- ・出生率の向上
- ・大都市圏への人口流出に歯止め



2060年に、
24万人超の人口を維持

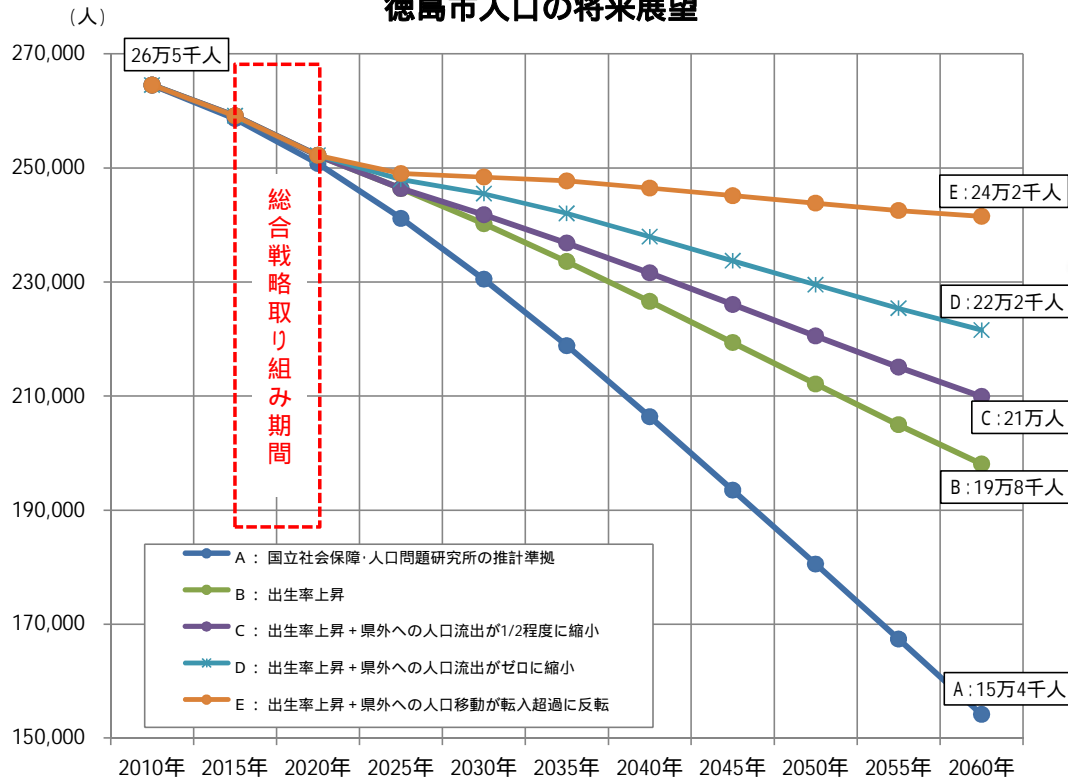
【徳島市未来チャレンジ総合戦略 [H27～31] (素案)】

基本目標

<徳島市未来チャレンジ>
～徳島市が創る4つの新常識～

- ・日本全体の大きな流れである、人口減少を克服するには、これまでの常識を覆す大胆なチャレンジが必要
- ・本市では、「まち・ひと・しごと」の好循環を創出し、人口減少に歯止めをかける、4つの新常識を創出することにチャレンジします。

徳島市人口の将来展望



徳島市が創る4つの新常識

- 「若者は徳島市で夢を実現する」
【目標】雇用創出数 5年間の累計で1,000人以上
- 「子育てするなら3人以上」
【目標】出生数 2,200人以上(H31)
- 「徳島市が一番面白い」
【目標】県外への人口流出に歯止め 社会増の実現(H31)
- 「進化する地域社会は持続する」
【目標】徳島市に住みたいと思う 市民の割合 70%以上(H31)

人口減少に歯止め

【チャレンジ1】 (旧常識) 夢を持った若者は都会へ出て行く
(新常識) 「若者は徳島市で夢を実現する」の創出

【目標】雇用創出数 5年間の累計で1,000人以上

起業創業支援・人材育成

・大学と連携した起業促進・人材育成や創業のサポート、中小企業の人材育成等に取り組みます。

雇用創出

・企業誘致の促進や、社会のニーズに合致する雇用の確保、女性の就業促進に取り組みます。

地域産業の競争力強化

・新商品開発・販路拡大支援や、域内経済循環の拡大、農林水産物ブランド化の推進等に取り組みます。

【チャレンジ2】 (旧常識) 子どもは1人か2人が精いっぱい
(新常識) 「子育てするなら3人以上」の創出

【目標】出生数 2,200人以上(H31)

子育てにかかる負担軽減

・子育てにかかる経済的負担の軽減や、切れ目の無いサポート、家事・育児にかかる負担軽減等に取り組みます。

地域ぐるみの子育てサポート・啓発活動

・地域ぐるみで子育てをサポートする体制の充実、地域における子育ての拠点づくりや啓発活動等に取り組みます。

次世代を支える人づくり

・あらゆる世代を対象に、積極性やコミュニケーション能力の向上を図り、次世代を支える人づくりに取り組みます。

【チャレンジ3】 (旧常識) 都会でも田舎でもない地方都市は中途半端
(新常識) 「徳島市が一番面白い」の創出

【目標】県外への人口流出に歯止め 社会増の実現

都市の魅力発信

・物語性を持った都市の魅力発信や、積極的なPR活動の展開、魅力体験の環境づくりに取り組みます。

移住・定住促進 ~T(Tokushima)ターン活性化戦略~

・定住の場としての魅力の明確化と情報発信、大学生の地元就職促進、新規就農の促進に取り組みます。

中心市街地の魅力向上

・人が集まる仕掛けづくりや、都市を象徴する場としての環境整備、中心商店街の活性化に取り組みます。

【チャレンジ4】 (旧常識) 人口減少で地域コミュニティが維持できない
(新常識) 「進化する地域社会は持続する」の創出

【目標】徳島市に住みたいと思う市民の割合 70%以上

持続可能な新たな社会システムの構築

・公共交通の再編、利用促進や地域包括ケアシステムの構築、社会の変化に適応する制度運用、市民参加の促進に取り組みます。

既存資源の有効活用

・公共施設のライフサイクルコスト低減や、遊休施設の利用促進、オープンデータ化の促進に取り組みます。